

## Love &amp; Smile



公益社団法人郡山青年会議所2022年度スローガン

Just keep going!

～前進あるのみ！～

自ら行動しよう、愛と笑顔が溢れる郡山の未来のために

## 【はじめに】

私が二〇一三年に郡山青年会議所に入会してから十年が経ちました。大学、社会人と東京で過ごし実家の稼業を手伝うために郡山へと帰ってきた十年前の私は、郡山青年会議所のOBであった父の薦めもあり、人脈作りのため郡山青年会議所の門を叩きました。入会当初は慣れないJCI運動・活動に右往左往するばかりで、「まちのため、子どもたちの未来のため」と奔走する先輩方や同期メンバーをはじめ、志高く目標をもって活動する多くのメンバーを横目に見ながら思うように運動・活動ができない時期も多くありました。そのたびに先輩方や同期のメンバーが私に手を差し伸べて引き上げてくれて何とか運動・活動に戻ってこられた十年間の日々でした。そんな十年間を過ごすうちに、JCIがまちや未来を変えることはできないと思っていた私も、志を同じくする仲間となら変えることができるかと考えられるようになりました。

私たちの運動・活動は微力かもしれませんが決して無力ではありません。私たちが蒔いた種はいつかこのまちで大輪の花を咲かせる時がきつと来ます。たとえ芽が出ず枯れてしまったとしても、そこに気づきと学びという根が残る限り必ず芽を出す時が来るのです。

アフターコロナという急速に変化する時代のなかで、先輩方が紡いでこられた郡山青年会議所の歴史と伝統、そして変革の能動者としての志を守り続けるためには、私たちも絶え間なく変化していく他ありません。“Challenge a new era, and you will change the future”。新



公益社団法人郡山青年会議所  
二〇二三年度 理事長立候補所信

二〇二三年度 副理事長 芝田 銀平

しい時代に挑戦し、ともに未来を変えていきたいと思います。

## 【持続可能な組織へ】

人口減少や時代の変遷、価値観の多様化など会員減少の理由は様々ですが、郡山青年会議所メンバーは年々減少の一途にあります。このような状況のなか、このまちを思い共に運動・活動する同志の輪を広げるためには、組織が社会の価値観に合わせて変化することが重要です。単に社会に付和雷同するということではなくメンバー一人ひとりが郡山青年会議所の強みを見つめ直し、弱みを変えていく勇氣が必要となります。私たちの強みは何か、変えなければならぬ弱みは何か。アフターコロナという新しい時代において持続可能な組織であり続けるためには、会員拡大活動を継続して行うとともに、組織における今までの常識や慣習を疑い見つめなおす必要があるのです。

## 【想いが伝わる発信】

インターネットやSNSといった情報発信ツールの進化によって、自分の考えや価値観に近い情報をAIが自動的にピックアップしてくれることが可能になりました。受け取り手にとって有益な情報と判断されなければ現代社会の膨大な情報のなかに埋もれてしまう一方で、「運動・活動を行うことで誰にどのような形で何を届けるか」といった理念や目的を常に重要視してきた私たちにとってはチャンス。時代でもあるのです。私たちは単に運動・活動内容を発信するのではなく、運動・活動の理念や



目的等のより深化した情報を多くの人々に伝える共感型の情報発信を行っていきます。それにより私たちの想いが多くの人々に伝わり、より大きな共感の輪となり広がっていくのです。

### 【地域を守り育てる】

地域の宝とは何でしょうか。人それぞれ様々なイメージをもっていることと思いますが、いつの時代も一番の宝はその地域に住まう人々です。私たちは産官学民のあらゆる組織と協働して、人々が住まうこのまちを守り育てなければなりません。地球温暖化に伴い発生する激甚災害への対応、二〇五〇年に温室効果ガスをゼロにする脱炭素社会への取り組み、新型コロナウイルスへの対応など、このまちに関する問題は山積しています。私たちはこのまちを持続可能な地域としていくために、これらの問題に対して積極的に、そして地域社会を牽引する行動を起こしていかなければなりません。また、地域を守り育てるためにはその地域に住まう人々の活気も重要となります。その活気を生み出すためには地域のパートナーと協働して、子どもたちにこのまちで描ける夢や希望を与える事業を行う必要があります。子どもたちが夢や希望を描ける持続可能な地域を創っていくこそが、私たちの使命なのです。

### 【より必要とされる組織のために】

郡山青年会議所は二〇一三年に公益法人格を取得し、十年間という長きに亘り公益社団法人郡山青年会議所として歩みを進めてまいり

ました。青年会議所の三信条である「奉仕」「修練」「友情」は三位一体であり、そのどれか一つだけでもバランスが崩れると機能しません。多くのメンバーの在籍年数が三年以上となりまちの問題が多岐に渡りより複雑化している現在においては、インプットが追いつかないままアウトプットを行う状態であり、奉仕と修練のバランスが大きく崩れたまま運動・活動を行うことを余儀なくされています。私たちは大きく崩れたこのバランスを取り戻すために、より自己成長が可能となる組織への検討を進めていきます。自己成長を重ねることでメンバー一人ひとりが問題意識を持つアクティビチズンへと成長し、より地域に必要とされる組織へと進化するので

### 【結びに】

新型コロナウイルス感染拡大の影響は私たちの社会生活にも大きな変化をもたらし、変化した社会生活は決して元に戻ることはありません。アフターコロナという新しい時代において私たち青年は、かつて先輩方が荒廃した戦後の日本で「日本の再建は我々青年の仕事である」と立ち上がったように、新しい流れを創る変革の時を迎えています。私たちはその流れを多くのの人々に共感していただき、大きな潮流としていかなければなりません。新しい時代の変革期に立つ今だからこそ、このまちに住まう人々のために、全力で運動・活動に取り組むことをお誓い申し上げ、立候補所信とさせていただきます。

会社名	住所	学歴	職歴	J C 歴	J C 出向歴
株式会社小田原屋(食料品製造業)	〒九六三・八〇七一 郡山市富久山町久保田字郷花四二一〇	二〇〇八年三月 学習院大学 卒業	二〇〇八年四月 株式会社魚力 入社 二〇一〇年一月 退社 二〇一〇年二月 株式会社小田原屋 入社	二〇一三年 入会 総務委員会 二〇一六年 教育開発委員会 委員長 二〇一九年 青少年育成委員会 委員長 二〇二〇年 指導力開発室 室長 二〇二二年 副理事長 二〇二三年 副理事長	二〇一五年 福島ブロック協議会 ブロック大会実行委員会 二〇一七年 組織連携推進委員会 二〇一八年 ブロック大会実行委員会 二〇二〇年 東北地区協議会 東北青年フォーラム運営委員会

### 芝田 銀平君プロフィール (一九八四年十一月一日生)





## 第二十五回 わんぱく相撲こおりやま場所

五月十五日(日)

郡山相撲場にて第二十五回わんぱく相撲こおりやま場所が開催されました。

本年は新型コロナウイルスがまん延している中で開催となり、開催自体が危ぶまれる状況ではありましたが、二二〇名以上の方にご来場いただき、多くの子どもたちが懸命に相撲に取り組むことで礼節や努力、友情などを学ぶ大変有意義な大会となりました。

今回の大会における四年生、五年生、六年生の部の優勝者と準優勝者の子どもたちは続く六月十九日(日)に開催が予定されているわんぱく相撲福島ブロック場所へ出場されます。

今回事業の設営を担当された青少年育成委員会委員圓合紀幸君からは「目の前で繰り広げられる少年達の一戦勝負と一喜一憂する姿に感銘を受けました。これからも青少年育成に尽力して参ります。」

同じく青少年育成委員会委員杉島健太君からは

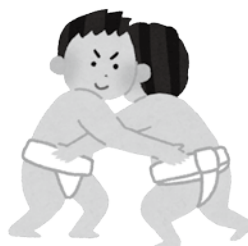
「子ども達の緊張感を肌で感じる事ができる大会でした。全国大会でも自分の全力を出しきり、感動を与えて欲しいです。」  
という感想や今後の意気込みがあり



ました。

今後郡山青年会議所メンバーで多くの子どもたちが懸命に相撲に取り組む、学び・気づきを創出する機会を創出しています。

得られる機会を創出しています。



### 一戦！ がんばれ！！ 気合が入る



## 大会結果

### 【4年生の部】

- 1位 柴宮小学校 佐藤大心 君 (さとう だいしん)
- 2位 柴宮小学校 深町 旭 君 (ふかまち あさひ)
- 3位 薫小学校 宮田 周 君 (みやた しゅう)

### 【5年生の部】

- 1位 柴宮小学校 鈴木歩夢 君 (すずき あゆむ)
- 2位 柴宮小学校 片柳雄人 君 (かたやなぎ ゆうと)

### 【6年生の部】

- 1位 日和田小学校 佐々木悠正 君 (ささき ゆうせい)



## 第六十一回 「久米賞・百合子賞」審査員初顔合わせ会

五月十八日(水)

郡山市労働福祉会館にて第六十一回「久米賞・百合子賞」審査員初顔合わせ会が開催されました。

本年の第六十一回「久米賞・百合子賞」

にて審査員をお務めいただく審査員の皆様に委嘱状が交付され、小説部門四名、詩部門三名の計七名の審査員が決定しました。審査員長には溝井勇先生が選出され、本年の久米賞・百合子賞への展望をお話しされました。

その後は開催要項や応募要項、審査方法について話し合いが行われ、より一層子どもたちの作品が良くなるような取組について意見が交わされました。

今後多くの子どもたちに作品を通して自由な表現や想像力を創出できる機会となるよう精一杯取り組んでいきます。





## 5月例会並びにSDGs×郡山青年会議所 ×こおりやま謎解きウォークラリー

五月二十二日(日)

四季の里緑水苑にて二〇二二年度五  
月例会並びにSDGs×郡山青年会議  
所×こおりやま謎解きウォークラリー



が開催されまし  
た。今回の例会及  
び事業については  
メンバーのご家族  
が参加され、メン  
バーやご家族との  
交流を深める機会  
となりました。



また例会では  
二〇二二年度新  
入会員入会許可書  
授与式」執り行われ、遠藤祐介君が新た  
に私達郡山青年会議所のメンバーに加  
わることになりました。そして公益社  
団法人日本青年会  
議所共創グループ  
組織改革委員会高  
橋隆太委員長にお  
越しいただき「育  
LOM宣言」認定  
賞授与式」にて認  
定書の授与が行わ  
れました。

その後は総務委員会の新入会員メン  
バーによる「SDGsももたらう」の演  
劇が開催され、子どもたちが分かりや  
すく楽しみながらSDGsを学べる機  
会となりました。



内容となっており、メンバーやご家族の  
皆様、子どもたちの楽しみながら交流を  
交わす大変貴重な機会となりました。  
事業に参加した新入会員の遠藤祐介  
君からは

「先輩方と  
一緒に郡山を  
盛り上げな  
がら、私自身  
も成長してい  
きたいと思っ  
ております。」  
という力強い  
宣言があり、  
新しい仲間  
も加わり更  
に私たちの運  
動・活動が発  
展していく機  
会となりました。



演劇の後は、こ

おりやま謎解き  
ウォークラリーが  
開催されました。  
ウォークラリーで  
謎を解きながら

キーワードを完成  
させ、最後に縁日  
で子どもたちがお  
もちややお菓子の  
景品を獲得できる

## 郡山魅力サミット

「あなたがいるから、できること」

六月十九日(日)

郡山市の安積歴  
史博物館にて「郡山  
魅力サミット」があ  
なたが「いるから、で  
きること」が開催  
されました。

各種団体、企業、  
学生、行政のご担当  
の方々が集い、郡山  
の魅力を見つめる  
ことから新たな価  
値を創造していくき  
っかけとなる事業  
となりました。

第一部では講師にヘルペチカデザイ  
ン株式会社代表取締役佐藤哲也氏をお  
招きし、関係各所との多種多様な関係  
を生み出すことで  
地域から新しい価  
値を創造すること  
を実例を踏まえて  
講演いただきました。  
また各学生団  
体の皆様から活動  
の発表が行われ、  
郡山をより良くす  
るための取り組み  
やアイデアが我々  
メンバーやご参加  
いただいた企業、  
行政の皆様へ共有  
されました。



第二部では「誰かに伝えたい私だけ  
が知っている郡山の魅力」をテーマに  
各グループに分かれて座談会が行われ  
ました。第一部で行われた各学生団体  
の皆様からの活動発表の際にも様々な  
郡山の魅力をどのように広げていった

り伸ばしていく  
活動をしている  
かお話がありま  
したが、それぞ  
れが思う郡山の  
魅力について各  
団体、企業、行政  
の方々と共有す  
ることで、いま  
で気づいていな  
かった新しい郡  
山の魅力を発見  
する機会となり  
ました。



設営を担当されたまちづくり委員会  
委員山田健人君からは  
「郡山の魅力を発信したいという学  
生団体の熱い思いが伝わる事業にする  
ことが出来た。」

今事業に賛同し来場していただいた  
あらゆる企業の方々からも真剣なご意  
見をいただき、会場にいた全ての人々  
にとって、とても有意義な時間であつ  
たと思う。」

同じくまちづくり委員会委員佐藤伸  
行君からは

「今回の事業で多くの学生の方々や  
企業、団体の方々との新しい形の交流が  
できたことが非常に良かった。今後は  
今事業での反省点もしっかりと検証  
し、今後の事業に繋げていかなければ  
いけないと思った。」

といった感想をいただきました。  
本事業を通して発見した郡山の新しい  
魅力が、郡山をより良くするための  
更なる気づきの機会となりました。



## 第二十五回 わんぱく相撲 福島ブロック大会

六月十九日(土)

第二十五回わんぱく相撲福島ブロック大会が会津若松市のあいづ相撲場(会津総合運動公園)にて開催されました。

今回のブロック大会には、先日のこおりやま場所予選を勝ち抜いたわんぱく力士五名が郡山代表として出場しました。

四年生の佐藤大心君は先日開催されたこおりやま場所の全勝優勝に引き続き、ブロック大会も負けなしの全勝優勝を飾り、見事福島県の四年生横綱となりました。

佐藤君は十月三十日(日)に東京都の両国国技館にて開催される全国大会へ郡山のわんぱく力士を代表しての出場となります。



### 【四年生の部】

柴宮小学校 佐藤大心君(さとう だいしん)

柴宮小学校 深町 旭君(ふかまち あさひ)

### 【五年生の部】

柴宮小学校 片柳雄人君(かたやなぎ ゆうと)

柴宮小学校 鈴木歩夢君(すずき あゆむ)

### 【六年生の部】

日和田小学校 佐々木悠正君(ささき ゆうせい)



## 六月例会

六月二十三日(木)

郡山市郡山公会堂にて六月例会が開催されました。本年

も六月に入り、折り返しに差し掛かってきたところで、理事長挨拶では各種事業が実地での開催が多くなってきたことに触れ、実際に足を運び参加することで多くの学びがあり、幅広い視点を得るためにも積極的に参加していただきたいと話されました。

各委員会からの会務報告についても、今月に行われた対外の方々をお迎えした事業が二つ開催されたこともあり、開催したことでの効果や今後の動きに向けて各委員長からメンバーへお話がありました。



出向者報告も、七月は福島ブロック大会、サマーコンファレンスが開催されるため、各出向先の活動もより活発になってきており、各出向メンバーからは様々な活動の報告がありました。私たち郡山青年会議所が本年の後半に向けてより一層郡山をより良くするための運動を行っていくための大変貴重な例会となりました。

## 二〇二二年度「じゃがいもカップ」ゴルフコンペ

六月二十五日(土)

矢吹ゴルフ倶楽部にて二〇二二年度じゃがいもゴルフコンペが開催されました。

近年新型コロナウイルスの影響で開催ができておりませんでしたでしたが、本年は参加された会員の皆様にご協力いただき、無事に開催することができました。

当日は天候にも恵まれ、ゴルフを通じてOB会の先輩方との貴重な交流を図ることができ、現役メンバーにとっても大変貴重な時間となりました。





## 第五十二回 福島ブロック大会in二本松

七月二日(土)、七月三日(日)

福島県は二本松の地で第五十二回福島ブロック大会in二本松が開催されました。初日は岳温泉街にてニコニコ共和国が復活し、さまざまな地域の名産が振舞われる「たちいち」が開かれました。メンバーもご家族やメンバー同士で各お店を回りながら地域の特色に触れることができました。



その他にはニコニコ共和国模擬大統領選挙、防災スタンプラリー、夜にはイルミネーション&夜散歩など、二本松市の誇る岳温泉街の魅力を最大限生かした設営がされておりました。当青年会議所から福島ブロック協議会組織連携推進委員会に出向されている中嶋拓歩君も防災スタンプラリー担当として活躍しておりました。各種ファンクションの設営に参加され活躍している姿も見ることができ、多くのメンバーにとっても楽しみながらまちの魅力を広げていく運動を体験をできるなど、メンバーの活躍を間近で見られる大変貴重な機会となりました。

その後に開催された大懇親会では、東北地区協議会が担当される東北青年フォーラムin栗原のPRが行われました。当青年会議



所から東北地区協議会へ出向している二瓶一嘉君が進行を務め、柳沼勝恵君、高橋章太君、大越惇平君、三瓶卓也君も横断幕を持ってシュプレヒコールを行い、参加者一同の東北青年フォーラムへの想いが一つになったファンクションとなりました。



二日目は二本松市民会館にて「アカデミー委員会政策発表」「記念式典」が開催されました。

アカデミー委員会政策発表では、それぞれの塾ごとにこの半年間アカデミー委員会での学んだ成果を基に、各地域の魅力の探求や発信などについて発表が行われました。当青年会議所からは坂本皓亮君、佐藤広幸君、杉島健太君が出向されており、三名のご活躍や成長や想いが伝わる大変貴重な機会となりました。

その後の記念式典では本大会の総評や福島ブロック協議会二〇二三年度会長候補者の発表、二〇二四年福島ブロック大会候補地の発表が行われ、二日間

で多くの学びや気づき、今後の福島県の発展を感じ取ることで、できる大変貴重な大会となりました。



## 二〇二二年度サマーコンファレンス

七月十五日(金)、十六日(土)、十七日(日)横浜市にて「しくみの数だけ、幸せがある」のスローガンのもと、三年ぶりにサマーコンファレンス二〇二二が開催されました。



初日は(公社)日本青年会議所組織改革委員会へ出向されている新田義幸小幹事、圓谷紀幸委員の元へ応援と委員会への御礼に伺いました。お二人はブースにて各地LOMの相談や運動PRでも活躍されて

いました。委員会への訪問後は、地区ナイトに参加し、(公社)日本青年会議所東北地区協議会へ出向されている高橋章太事務局次長、東北青年フォーラム運営委員会二瓶一嘉副委員長、東北青年フォーラム運営委員会大越惇平幹事、価値デザイン会議三瓶卓也委員が地区ナイトの運営や東北青年フォーラムのPRで活躍をされて



二日目は岸田首相をお招きして政策提言が行われ、今後の日本の将来像を感じることができました。その後は、(公社)日本青年会議所まちのレジリエンス確立委員会へ出向されている佐久間悠治委員が担当しているセミナーに参加し、宇宙ビジ

ネスへの身近さや可能性を感じることができました。

夜は(公社)奈良青年会議所様との合同LOMナイトが開催され、改めて姉妹JCの絆を感じる大変貴重な時間となりました。その後はLOMナイト会場の屋形船へ移動し、都市部の街並みを背に様々な想いや意見を交わすことができました。

最終日は、福岡市市長高岡宗一郎氏との対談やクロージングでは池田純氏の講演が行われ、様々な学びを得る大変貴重な時間となりました。

三日間の引率を担当した広報委員会の菅野展寛副委員長からは、「岸田総理への提言書の中で、中小企業への積極的投資を行ってほしいといった強い思いを私自身社業、地域へ還元していきたいと改めて考える貴重な機会となりました。」

同じく広報委員会委員大原慶大君からは

「引率を担当したことで次回からのサマコンの流れ等はほぼ理解できたと思います。また今回の反省点をしっかりと受け止めて、来年度以降のJC活動に繋げて行きたいと思っています。」



といった多くの気づきもある大変有意義な遠征事業となりました。

# 七月例会

七月二十一日(木)

郡山ビュートホテルアネックスにて7月例会が開催されました。7月例会では毎年度理事長候補者の発表が行われる大切な日となっており、多くの現役メンバーとOB会の先輩方が次年度理事長候補者の応援に駆けつけていただきました。



冒頭久保田理事長からのご挨拶では、先月例会でのお話に続き、JC運動・活動の中での慣れや慣習の話があり、今一度役職を引き受けた際の自身の当時の想いや考えなどを思い出して、これからの半年を過ごしていただきたい旨のお話がありました。

その後は各委員会からの会務報告、各出向者からの出向者報告があり、6月からの各種事業や遠征事業の御礼やこれからのメインとなる事業のPRが行われ、各委員会のメンバーもPRに参加する



るなど各委員会の熱意も伝わり、事業や大会参加への意欲がより一層高まったことと思います。出向者報告については、七月の二つの遠征事業で各委員会が各々のファンクションを担当してい

る機会が多く、各種セミナー、事業等へのメンバーの参加に対しての御礼が多くありました。改めて郡山青年会議所からの出向者メンバーの数多くの活躍を認識すると共に、来年以降の出向に対する意欲もよりメンバーの中で生まれたのではないかと感じた出向者報告となりました。



その後は二〇二三年度理事長候補者として芝田銀平君へ当選証書授与が行われました。また、次年度専務理事候補者として阿部圭祐君の紹介がありました。次年度候補者の芝田副理事長からは次年度へ向けての力強い宣言があり、メンバー一同もより一層気持ちの引き締まる大変貴重な機会となりました。

## 地域アンケート記事

六月一日(水)から六月三十日(木)の一月間第二回の地域アンケート(こおりやまの声ポケット)を開催させていただきました。ご協力いただきました皆様ありがとうございます。本年二回目の実施となりましたこちらのアンケートでは、第一回のアンケートを更に深掘りし、具体的な質問をさせていただくことでより共感を得られるような事業を実施、発信していくため多くの皆様からご回答をいただきました。

今回のアンケートでは回答総数四四二件もの回答を頂くことができ、七割以上のご回答を十代、二十代の方々からいただきました。郡山青年会議所についてなにご知り了吗か?という設問では多くの媒体または実際に事業の参加等を通して知った方が多く、一つの方法でPRするのではなく多くのメディアを使用する重要性を改めて感じることできました。またどの事業に参加したいと思いますか?という設問では、まちづくり事業の「ユニバーサルフェスティバル」と青少年育成事業の「みらいシティ」が回答の五十%以上を占めており、一般の方への印象深い事業だったことが分かりました。

青少年事業に対しての設問では郷土愛を育む教育やスポーツなどの子どもの発育に関する教育が必要と感じている方々の声が多く、今後の事業の参考になるご意見となりました。また具体的にどんな遊びをしてほしいか?との問いに対しては、多くは体を動かして遊ぶスポーツに関する回答が多く、それに関する施設の拡充を望んでいる声が多く見受けられました。

まちづくり事業に関する設問として、こおりやまの一番の魅力はどれですか?という設問については交通のアクセス面や各種施設(学校、病院等)の充実、街と自然のバランスという環境面に対する声が多く占められました。しかし、郡山に足りないと思うところは何ですか?という問いに対して、魅力と感じている施設に対しての数多くのご意見もあり、店舗や有名企業の招致、スポーツ施設などの不足等、施設の種類のよってはまだまだ不足していると感じている方も多くいることが分かりました。

最後の郡山青年会議所への各ご要望

では、応援のメッセージや事業自体を楽しむにしたいだいている回答も多く、私達にとつての励みになる回答をいただきました。本当にありがとうございます。

しかし、アンケートで全体的に散見されていた「分からない」との回答が各設問で多くありましたが、今回のアンケートの回答者が若い層(十代、二十代)の回答が多かったことから、まだまだ私達郡山青年会議所の広報活動、運動発信において若年層への広報、PRが足りていないことがこのアンケート結果から分かることできました。

今回のアンケートと前回のアンケート結果をメンバー一同で共有させていただき、今後の私たちの活動の参考にさせていただきます。



## 第2回アンケート集計結果

実施期間: 2022年6月1日～2022年6月30日

地域アンケート～こおりやまの声ポケット～



8/20(土)  
開催

参加者募集

# 体験型防災アクション LIFE LINE



青少年育成事業「防災体験キッズワークショップ～体験型防災アクション～」を、8月20日(土)郡山カルチャーパーク内カルチャーセンターにて開催いたします。

午前9時30分からカルチャーセンターアリーナにて、福島県初開催となる「体験型防災アクションLIFE LINE」が開催されます。

また、同日午前9時からはカルチャーセンター内の会議室等にて「防災体験キッズワークショップ」として、警察署、消防署、学生による、AED講習、緊急通報レクチャー、家具の固定方法・防災グッズ制作などの体験学習を行います。同会場内では郡山市を襲った災害のパネル展示を行い、郡山市で過去に生じた災害による被害を知ることができます。いずれも参加費は無料となります。

なお、「体験型防災アクションLIFE LINE」は事前申し込み制となります。

【申込開始日時】7月30日(土) 午前10時

【申込URL】<https://bosai-revo.com/event/20220820/>

【募集人数】1公演100名×3公演

①9時30分～11時 ②12時～13時30分 ③14時30分～16時

※各100名

各回申込人数に達し次第受付終了となりますので、予めご了承ください。

自由参加

## 防災体験キッズ ワークショップ

カルチャーセンターアリーナ内(会議室・展示室)



01

過去を知る  
パネル展示

将来起こることが予想される自然災害への備えは過去に生じた災害を知ることから始まります。2011年の東日本大震災後の郡山市内の様子と、2019年の台風19号による郡山市内の水害状況が分かる写真や資料を会場内に展示します。



02

AED実演講習・  
コロナ禍での心肺蘇生法

AEDを使えば助かる命があります。必要なのは、あなたの少しの勇気とあなたが行う救命活動です。命を救うためには、救急隊が到着するまでの「あなた」の応急手当が大切です。AEDや心肺蘇生について学び、万が一に備えた知識や技術を習得することができます。



03

緊急通報レクチャー

緊急時の通報をするときには、正確な情報を伝えることがなによりも重要です。災害だけでなく事件や家事などを見かけた緊急時に、落ち着いて通報や連絡をする能力を身につけましょう。



04

家具の固定方法・  
防災グッズ制作

震災時の死者の約9割は、住宅の倒壊や家具の転倒が原因で亡くなっています。家具や家電の正しい固定方法を学び、おうちでの防災減災につなげましょう。また、身近なもので防災グッズを作る知識を身に付けて、周囲を助ける存在になりましょう。

